2024/6/2　　「 わが愛に居れ 」　　詩編 84:11

長年にわたり、京都復興教会と緒形乙枝先生に仕えてこられた、山根芳枝先生が、４月２４日に９４歳で召天されました。生前の希望で、一回だけ記念会をして欲しい。伝道会になるように望む、とのことでしたので、５日のお誕生日に近いこの日に、その希望をかなえる朝を設けさせていただきました。

恩寵無限

２０１０年クリスマスに、山根先生は人生の感謝を述べたいと望まれ、『恩寵無限』を発刊されました。そこには、まずイエス様に救われた喜びが、生き生きと書き記されています。ヨハネ 15 章 16 節の御言葉は、先生の愛唱聖句です。内表紙にも、それは記されています。今朝の説教題である「わが愛に居れ」は、この直前の９節の御言葉です。人生にはターニング・ポイントとなる特別な体験があります。人生の意味を見出し、その一瞬にかける生き方ができる人は、最も幸いな人だと言えるでしょう。それは、他人の目にどう評価されるかということではありません。山根先生は、１９４８年5月１３日秋鹿教会で伊藤馨先生、緒形乙枝先生と出会ったこと、そしてイエス様を信じたことが、生涯の宝物となったのでした。「恩寵無限」と告白できる源がここにあります。

イエス様につながっている、という恵みの大きさを、山根先生を通して改めて思わずにいられません。人間は、人に迷惑かけないようにと教えられていますが、裏を返せば、決して人は誰も一人では生きられないという事実があります。意外と、自ら繋がりを振り払ってしまうことが、その人の喜びや温もりを失わせています。けれども、十字架と復活というイエス様の救いを信じていれば、必ず「あの人は色んなことがあったけど幸せだった」と人々に天国への道を指し示すことができます。

神の家の門口に

山根先生のお宅の山積みの書類の中から、札幌新生教会創立 110 周年記念誌を見つけました。伊藤馨先生の牧会されたホーリネスの教会です。興味深く拝見する中で、最後に一番新しい受洗者として、現在の岡田牧師の御子息の、初々しい証が掲載されているのを見つけました。そして今朝の詩編 84 編 11 節が引用されていたのです。

伊藤馨先生から受洗した山根先生が 100 年近い生涯を送り、新しい 21 世紀に若い世代が、同じように次の時代をイエス様の愛の中に生きている姿を思い、胸が熱くなりました。そして、神の家の門口の１日は、千日にも勝る喜びだという、古代の詩編の作者の祈りは、まさしく山根先生の告白と重なるのだと感じています。

私たちも千日に勝る１日を、イエス様を信じて、平安と喜びをいただきましょう。